



市民病院

八十ちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

乳腺外来を紹介します

最新がん統計によれば、新たに乳がんと診断される女性は12人に1人と言われ、平成26年の調べでは、乳がんで亡くなった人は13,000人を超えています。乳がんを患うのは40歳代の女性が多いと言われていますが、最近では20～30歳代で発症する人も増えています。ただ、乳がんは早期発見し、適切な治療を行えば、良好な経過が期待できる病気です。1年に1度はマンモグラフィや超音波検査を受けることをお勧めします。

市民病院では、毎週火曜日の13時30分から日本乳がん学会の認定医による乳腺外来を行っています。まずは医師による問診と視触診を行ってから、マンモグラフィや超音波検査を実施します。診断結果は可能な限りその日に説明します。必要に応じて、針生検（病変の一部を採って顕微鏡で調べる）や、MRI、CTなども行います。

乳腺外来は、しこりや痛みなどの症状がある人や乳頭分泌液に異常がある人、乳がん検診で異常を指摘され要精査となった人のうち、初診の人が対象です。また、完全予約制のため、受診を希望する人はかかりつけ医に相談してください。かかりつけ医から当院の地域連携室を通して乳腺外来の予約ができます。

症状があらわれたり心配なときは、早めに病院を受診してください。

通常の外科外来でも乳腺の診察は行っています。予約不要ですので、気軽にご利用ください。



△亀岡伸樹（日本乳癌学会認定医）



△検査を対応する女性技師たち

碧南の歴史へのいざない

No.27 人物小伝 水野忠友

江戸時代中期から後期にかけて、大浜に陣屋を置き、この地域を治めていた領主をご存知ですか。その1人に水野忠友がいます。

彼が生を受けた水野家は、信州松本（長野県松本市）初代藩主水野忠清を祖とする家系で、徳川家康の外戚にあたる重要な家柄の1つでした。

忠清から八代目にあたる忠友は、享保16年（1731年）に生まれました。忠友は幼いころからそう明だったため、9歳のころに当時3歳だった竹千代（後の十代将軍徳川家治）に仕えました。彼は徳川家治の信頼を得たことで、側近として順調に出世し、田沼意次の腹心として、力を尽くしました。



△大浜陣屋広場看板

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

明和5年（1768年）、若年寄に就いた忠友は、新たに三河国碧海郡の領地を与えられ、大浜の領主となりました。忠友は翌年大浜陣屋を構えましたが、羽根町の跡地は近年大浜陣屋広場として整備されています。

安永6年（1777年）に側用人となったことで、城持ち大名に昇格し、駿河国沼津（現静岡県沼津市）藩主となりました。同時に、大浜は沼津藩の飛び地となりました。

その後、幕府役人最高職の老中まで上った忠友は、享和2年（1802年）に71歳で亡くなりました。



△大浜陣屋広場入り口